

◎令和6年度業務委託 料金徴収員基本配置人員算定基準

(伊豆スカイラインのみ)

【算出式】

- ①ブース内総労働必要時間の算出  
基本レーン [基本人員×営業時間×営業日数] + 繁忙時レーン開放時間……A
- ②営業開始・終了に伴う必要労働時間の算出  
[基本人員×(営業開始必要時間+営業終了必要時間)×営業日数] ……B
- ③総労働必要時間の算出  
A+B=C
- ④総必要人工数の算出日数  
C÷1人当たり勤務時間/日……D
- ⑤必要人員数の算出  
D÷1人当たり年間勤務日数

【算出内訳】

- ①基本人員 2名 (各方向別の車両から徴収が可能な最低基本人員)  
伊豆スカイライン料金所再編に伴い、冷川料金所のみ1名 (進入車両の徴収等対応、退出車両には対応なし)
- ②繁忙時レーン開放時間の算出
  - (1) 伊豆SL：令和5年9月1日～令和6年8月31日の時間別方向別通行台数から曜日別(平日・土曜・日祝日別)の時間別方向別台数を算出する。
  - (2) 上記(1)の時間別方向別台数を各曜日別日数で除すことで、平均時間別方向別台数を算出する。
  - (3) 上記(2)の平均時間別方向別台数にて、繁忙時における予備レーンの開放を必要とする時間数を求める。  
この基準となる台数は日本道路公団設計要領「車線数、サービス時間及び平均待台数と処理可能台数」におけるピーク時台数を使用する。

道路別	伊豆中央道 修善寺道路	伊豆スカイライン (現行)		伊豆スカイライン (料金所再編後)		その他
		進入	退出	熱海峠料金所 亀石峠料金所 天城高原料金所	冷川料金所	
サービス・タイム	8秒	18秒	10秒	8秒	18秒	8秒
1レーン当たり ピーク時台数	230台*1	100台*1	270台*2	230台*1	100台*1	340台*2

注) \*1については平均待台数が1台の場合の台数を使用した。  
注) \*2については平均待台数が3台の場合の台数を使用した。

- (4) 令和7～8年度を曜日別に分類し、この日数に上記(3)で求めた時間数を乗ずることで、繁忙時レーン開放時間を算出する。

③1人当たりブース勤務時間

- (1) 料金徴収員は、1勤務8時間45分の拘束時間のうち、45分の休憩時間を除いた8時間ブースにて徴収を行うものとして算定。

④営業開始及び終了必要時間

営業開始時及び終了時に伴い、その準備(つり銭の準備・運搬、収受機・通行券のセット等)に各15分、計30分必要であるものとして算定。  
(ただし、東芝テック製のPOS型収受機を使用している道路は、営業終了時のデータ送信に追加で必要となる15分を加算する。)

⑤年間勤務日数

年度	年間日数	年間休日日数			年間 勤務日数
		公休日	年休等	計	
7年度	365	109	10	119	246
8年度	365	108	10	118	247

公休日	7年度	8年度
	109日	108日
土曜日	52日	52日
日曜日	52日	52日
12/29～ 1/3の平日	5日	4日